

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- ①～② 兵庫自治学会研究発表大会を開催
- ③ 大震災復興過程の比較研究～関東、阪神、淡路、東日本の三大震災を中心に～
- ⑤ 情報ひろば
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター Mirai

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **48** 平成26年 (2014) 11月

10月4日、「希望ある地域社会の創造に向けて」を大会テーマに、兵庫自治学会研究発表大会が兵庫県立大学神戸商科キャンパスで開催されました。午前には総会・基調講演、午後からは5つの分科会に分かれ会員等による研究発表があり、230人が参加しました。

今回の大会では、人口減少社会と災害多発期にあって、希望ある地域社会の創造に向けてどのような社会を目指し、その実現に向けてどのような政策を選択し、行政・住民・企業などさまざまな主体が役割を果たしていくべきか、特に東日本大震災からの復興から見てきた、日本の地域社会の課題と解決に向けた展望について考えました。

開会に当たり、金澤和夫兵庫県副知事から来賓あいさつがあり、会員が日々仕事に従事しながらも熱心に研究・交流活動を行っていることに対し激励されました。



平成25年度兵庫自治学会賞、研究発表大会優秀発表者紹介

昨年度の研究発表大会の分科会発表者のうち、最も優秀な論文に対して贈られる兵庫自治学会賞受賞者、分科会の優秀発表者を紹介しました。



兵庫自治学会研究発表大会を開催

全体会 (基調講演)

午前中の全体会では、ニート(若年無業者)研究の第一人者であり、最近では多くの研究者をコーディネートして「希望学」の体系的・実践的な研究を進めている東京大学社会科学研究所の玄田有史氏が、「地域の希望のつくり方」と題して基調講演を行いました。

玄田氏は冒頭で、「先行きが不透明な時代を生きるには、いい意味で開き直れる生き方を大事にすること、困っている人同士が支え合うつながりをつくること、日ごろから地域で信頼関係をつくるのが大切。希望とは、与える・与えられるのではなく、自分にとって大切な何かを自分のアクションによって必ず実現させるという強い気持ちのことであり、それを一人一人が持つことが地域の希望になる」と述べました。

また、幸福がこの状態が続いてほしいという“継続”だとすれば、希望はこうなってほしいという“変化”であるとした上で、地域の人々がみんなて話し合い、変わらず守り続けたいものを守っていこうとすること、変えればもっと良くなるものを変えていこうとすることが車の両輪のように働いた時、初めて地域が元気になると強調しました。

最後に、絆には身近な人との強い絆と、たまにしか会わないけれど信頼できる相手との緩やかな絆の2種類があると、地域社会を考えるときには、地縁・血縁のような限られた仲間の結束力としての絆と、自分とは違う経験を持っている人との間の緩く開かれた絆の両方を持っていることが、希望と安心、幸福につながるのだと締めくくりました。



分科会

午後からは5つの分科会に分かれ、22人の会員等(グループを含む)が日頃の研究成果を発表し、活発な議論を交わしました。分科会では、学識者や行政の幹部職員がコーディネーターなどを務め、研究活動を深めるためのアドバイスをするとともに、テーマに沿って問題提起を行い、会場参加者を含めたディスカッションを実施しました。

行政職員のほか、地域で活動を続けておられる方や大学生などからも発表があり、地域課題や行政施策への関心の高さと広がりを感じられました。今後の発表者・参加者の主体的な政策形成活動につながるものと期待されます。



分科会の様子

分科会テーマ	学識コーディネーター	行政アドバイザー
第1分科会「地域づくり ～地域の魅力再発見～」	兵庫県立大学地域創造機構 教授 畑 正夫	兵庫県企画県民部 ビジョン局長 坂本 哲也
第2分科会「産業 ～産業活力の創造と育成～」	兵庫大学生涯福祉学部 教授 田端 和彦	兵庫県産業労働部 産業振興局長 竹村 正樹
第3分科会「地域社会と地方行政 ～活力ある成熟社会の実現に向けて～」	関西学院大学法学部 教授 山下 淳	兵庫県企画県民部 政策調整局長 水埜 浩
第4分科会「防災・環境 ～安全・安心な暮らしの構築～」	追手門学院大学経営学部 教授 八木 俊輔	兵庫県企画県民部 防災企画局長 松原 浩二
第5分科会「教育・福祉 ～健康で共に支え合う社会づくり～」	神戸親和女子大学 客員教授 成清 美治	兵庫県教育委員会 教育次長 松田 直人

交流会

分科会終了後、大学食堂にて交流会が開催され、学会役員、分科会コーディネーター、発表者、会員等が参加し、意見交換を行うなどネットワークづくりにつながる交流を深めました。

※大会の詳細は兵庫自治学会ホームページ(<http://hapsa.net/announcement.html>)からご覧いただけます。

兵庫自治学会は、県政および県内市町行政の振興と発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指して活動しています。自らの視野を広げるために、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか？

■会員になるには

年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・本会の目的に賛同される個人

○申し込み・問い合わせ

兵庫自治学会事務局((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 学術交流センター内)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館6階

TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122

Eメール gakujutsu@dri.ne.jp <http://hapsa.net/>

大震災復興過程の比較研究～関東、阪神・淡路、東日本の三大震災を中心に～

主任研究員 金恩貞



1.はじめに

「地震大国・日本」は、大災害の発生を宿命として受け止めつつも、災害からもたらされ得るさまざまな危機を効率的に乗り越えるための備えを真剣に行っている。近年、日本では、災害後の復興や防災において技術的な発展を成し遂げるのみならず、学問分野においても活発な議論が行われている。災害・防災に関する研究は、さまざまな問題設定に基づいて多くの業績を積み重ねている。しかし、災害の復興過程を政治的観点から包括的に分析する視点や、過去の災害復興過程から教訓を得ようとする試みは必ずしも十分とはいえない。

本研究プロジェクトは、関東大震災(1923年)、阪神・淡路大震災(1995年)、東日本大震災(2011年)の三つの大震災復興過程における政治・行政のあり方を比較分析することで、政治・行政が次なる大災害にいかにも備えるべきかについての手掛かりを提供している。その問題意識をひも解くために歴史的史料や関連文献を収集・解析するほか、復興過程に関係していた者に対する聞き取り調査や被災地訪問を通じて、三大震災における政治・行政のあり方を丹念に比較分析している。

2.個別事例の比較分析

本研究会に所属している研究委員たちの個別の研究テーマは多様であり、昨年度に引き続き本年度に一層充実している。今回は、個別の研究事例を、「政府間連携」と「組織の参加」という観点から取り上げて簡単に紹介する。

まず、「港湾復興」「義援金支給」「廃棄物処理」の各事例の比較分析結果を、災害後の復旧・復興過程における「中央—地方—広域」政府間の連携、自治体の役割とその限界に焦点を当ててまとめたい。関東大震災の際には、港湾復興や住宅再建などが中央政府の強力なリーダーシップの下で進められた。被災者の住宅再建に対する義援金支給や生活支援のための現物支給も行われた。阪神・淡路大震災においては、中央—自治体の連携による港湾復旧が進み、復興計画も多岐にわたったが、複雑な工事分担構造が課題として提起された。一方、巨額の義援金が集まったにも関わらず、被災者数が多かったため配分額が少額(低額)に留まり、義援金頼みの限界が指摘された。そこで、中央政府に対する兵庫県の働き掛けにより、高齢者などに限定されたかたちではあるものの生活再建の現金支給が可能となり、その制度化にも成功した。東日本大震災の際には、国土交

通省を中心に港湾施設に対する迅速な初動・応急対応が実施された。また、広域的に港湾が被災したことで復旧の視点が「局地」から「広域」へと変化した特徴もみられる。義援金に関しては支給額が大幅に超過し、国費負担も特例的に加算された。

一方、災害廃棄物処理に関して、阪神・淡路大震災の際には中央政府の支援タイミングや広域処理実施における地方政府間協力によって迅速な処理が可能となり、「調整コスト」も低かった。東日本大震災の際にも、阪神・淡路大震災に倣い、環境省の主導で廃棄物の処理が比較的早期に達成された。さらに各県はアクター等調整のための「災害廃棄物処理推進協議会」を設置した。しかし、放射性廃棄物処理に関しては地元の合意形成が困難となり、広域処理に乗り出すのに時間を要した。

次に、災害地で女性団体、消防、軍隊(自衛隊)、警察などの組織がいかなる取り組みを行っていたのかを時代別に比較した研究のうち、ここでは女性団体の活躍と役割の変遷について述べたい。関東大震災をきっかけとして、それまでばらばらに活動していたさまざまな目的をもつ各種女性団体の連合が形成された。阪神・淡路大震災においては、地域の婦人会やボランティアの女性グループがともに被災者支援で活躍した。また、女性団体間の横のネットワークが形成され、震災における新たな役割や課題を見出し、復興計画に関する提言を行うなど、女性の視点を政策形成に反映させようとする取り組みもみられた。東日本大震災の際には、支援者の意見を反映させるシステムの不十分さ、コーディネート機能を担える組織・人材の不足、団体間連携の不十分さなどが問題点として挙げられるが、阪神・淡路大震災以降の災害経験を踏まえて、震災発生後すぐに全国各地の女性団体が被災者支援に乗り出した。

3.課題

これらの個別事例研究を通じて、復興における政治的役割や事前準備の重要性があらためて指摘されるとともに、自治体の役割や政府間の協調の相違が危機管理・応急対応・復興体制構築のあり方を規定していることが浮き彫りになった。一方、災害復興を考える際に国の役割と地方自治体の役割が混線しやすいことから、国家と首都の関係性や、政府間の役割を明確にすることを今後の研究課題とし、過去の教訓からいかに学ぶべきかについて今後とも積極的かつ深く考察していく。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

阪神・淡路大震災20年展 だまし絵Ⅱ

平成21年に開催し好評を得た「だまし絵」展の続編です。アルチンボルドによる古典的な作品はもちろん、素材や技法、内容の多様化とともに進化と変貌をとげてきた20世紀以降の現代的な作品を展示。ダリ、マグリット、エッシャーら20世紀の巨匠から現役のアーティストまで、さまざまな仕掛けを持つ作品を紹介いたします。

■会期=12月28日(日)まで

■観覧料=一般1,400(1,200)円、大学生1,000(800)円、高校生・65歳以上700(600)円、中学生以下無料

※障害のある方とその介護の方1人は各当日料金の半額(65歳以上を除く)

※()内は20人以上の団体割引料金



ジュゼッペ・アルチンボルド (司書) 1566年頃 スウェーデン城(スウェーデン) Photo: Samuel Uhrdin

学芸員による解説会

担当学芸員が展示会の見どころを分かりやすく解説します。

■日時=12月13日(土)16時~16時45分

■場所=レクチャールーム

■参加費=無料(定員100人)

県美プレミアムⅢ

阪神・淡路大震災から20年

コレクションを軸に他館からの借用作品も交えて、震災をテーマにした展示会を開催します。いくつかの小テーマを設け、震災と美術、震災と美術館などについて多角的に取り上げます。また、小磯良平と金山平三の代表作や、近・現代の彫刻と安藤忠雄コーナー等も併せてご覧ください。

■会期=平成27年3月8日(日)まで

■観覧料=一般510(410)円、大学生410(330)円、高校生260(210)円、65歳以上255(205)円、中学生以下無料

※障害のある方とその介護の方1人は各料金の半額(65歳以上を除く)

※()内は20人以上の団体割引料金



福田美蘭 (淡路島北淡町のハウモクレン) 2004年

チャンネル5 木藤純子 Winter Bloom

5回目となる今年度は、関西を拠点に、主にインスタレーションを表現手段とする作家、木藤純子の個展を開催。会場となる空間のつくり、光や風といった自然の要素など、あらかじめ存在するものに極めて抑制された表現を加え、特別な場を創り出してきました。本展は満月に初日を迎え、新月の夜に会期を終えます。

■会期=12月6日(土)~12月21日(日)

※12月22日(休館日)の新月の日には、屋外から見える1日限りの特別な作品を展示します

■観覧料=無料

■会場=アトリエ1の他、館内の各所に展開

◎休館日=月曜(祝休日の場合は翌平日)、12月31日~平成27年1月9日

◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理の12月はブータン料理、1月は震災特別メニューをご用意します!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



写真は10月のシルクロードプレート

メニューの詳細と写真については、

こちら→<http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

※年中無休(年末年始を除く)

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0384

Eメール jicaksic-event@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック! → <http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

「海外たすけあい」募金キャンペーンが始まります

世界中の紛争、災害、飢餓や病気などで苦しむ人々を救うため、12月1日(月)から25日(木)まで、日本赤十字社では毎年NHKと共同で「海外たすけあい」募金キャンペーンを行います。

皆さまからの温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

○募金方法

ご持参の場合

日本赤十字社兵庫県支部、赤十字病院、献血ルーム、NHK放送局、但馬銀行および農協・漁協の窓口など

お振り込みの場合

郵便局・ゆうちょ銀行

口座記号番号 01110-0-1136

口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部

※通信欄に「海外たすけあい」とご記入ください

○街頭募金

12月 6日(土)JR姫路駅

7日(日)JR垂水駅

13日(土)阪急宝塚駅

14日(日)JR明石駅

20日(土)JR芦屋駅

21日(日)JR神戸駅

23日(火・祝)JR三ノ宮駅

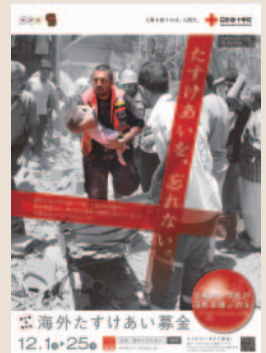
※すべて13時から16時まで

◎お問い合わせ

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫

検索



あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。

あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との

つながり。

それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお〜!

株式会社 神戸新聞総合印刷

【神戸新聞総合出版センター】

<http://www.kobepn-printing.co.jp/>

兵庫県こころのケアセンター

兵庫県こころのケアセンター

平成26年度第2期「こころのケア」研修の受講生募集

兵庫県こころのケアセンターでは、「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「専門研修」と、こころのケアに関する知識や理解を深める「基礎研修」を実施しています。

12月から2月にかけて実施する専門研修の受講生を次のとおり募集しています。ぜひご参加ください。

◆研修概要

区分	コース名	期間	定員	対象	受講料 (資料代等)
専門研修	① 被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケア-サイコロジカル・リカバリースキル(SPR)-	12/10(水) 11(木) (2日間)	35人	医師、臨床心理士、看護師、保健師、精神保健福祉士、その他関連領域の関係者	3,500円
	② 対人支援職のためのセルフケア	1/8(木) 9(金) (2日間)	35人	保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者(保健師、ケースワーカー、各種相談員、福祉施設指導員等)、教職員、スクールカウンセラー、保育職員	3,500円
	③ 消防職員のための惨事ストレスの理解と予防	1/21(水) 22(木) (2日間)	35人	消防職員	3,500円
	④ 発達障害とトラウマ	1/29(木)	35人	こども家庭センター(児童相談所)職員、福祉事務所職員、保健所職員、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	2,500円
	⑤ 子ども達のいじめのケア-加害と被害の連鎖-	2/18(水)	35人	教職員、スクールカウンセラー、教育委員会職員、児童相談所職員、いじめ相談窓口の相談員、保育職員等	2,500円

◆場所

兵庫県こころのケアセンター

◆申し込み方法

受講申込書*に必要事項を記入の上、郵送またはFAX、Eメールで下記照会先までお送りください。申込者多数の場合は、各研修開始日の1カ月前(前月の同日)の17時を期限として、初めて受講の方を優先の上、

抽選で受講者を決定します。

※当センターホームページからダウンロードできます

◆申し込み・問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org http://www.j-hits.org/

学術交流センター

「21世紀文明シンポジウム」開催のお知らせ

当機構と朝日新聞社は、阪神・淡路大震災や東日本大震災の経験と教訓等を踏まえつつ、米国危機管理庁(FEMA)の事例も考察しながら日本の危機管理のあり方について考えるシンポジウムを、来年2月に神戸朝日ホールで開催します。

詳しい内容は12月下旬に当機構のホームページでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

◆概要

テーマ:「減災～あすへの備え 次なる大災害と危機管理(仮題)」
日時:平成27年2月10日(火)13時～17時10分
場所:神戸朝日ホール(神戸市中央区浪花町59)

◆プログラム(日英同時通訳有)

- 基調講演
船橋洋一(元朝日新聞社主筆、一般財団法人日本再建イニシアティブ理事長)
- 基調報告
米国危機管理庁(FEMA)関係者(予定)
- パネルディスカッション・総括
・コーディネーター 五百旗頭真(機構理事長)
- ・パネリスト
①船橋洋一(元朝日新聞社主筆、一般財団法人日本再建イニシアティブ理事長)
②待鳥聡史(京都大学大学院法学研究科教授)
③河田恵昭(機構副理事長兼人と防災未来センター長)
④野田健(元内閣危機管理監)

◆問い合わせ

学術交流センター事業課
TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122
Eメール gakujuitsu@dri.ne.jp

平成26年度災害対策専門研修「トップフォーラムin広島」を実施

阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえ、地方公共団体の首長に求められる災害時の対応能力向上のため、全国の都道府県と協力してトップフォーラムを実施しています。今年度第1回は、広島県、ひろしま自治人材開発機構と共催で、10月3日に広島市内(広島県自治総合研修センター)で「トップフォーラムin広島」を開催し、湯崎広島県知事、松井広島市長をはじめ広島県内の首長、副首長等152人に参加いただきました。

第1部では、河田センター長が広島県内の災害の特徴を、宇田川研究主幹が災害対応における首長の役割を、近藤誠司リサーチフェローが災害対応における広報のあり方をテーマに講義しました。

第2部では、首長等が5、6人ずつ5つの班に分かれ、地震発生4日目の設定で現状の認識から将来を予測し、被災地

が目指すべき目標とそれを実現するための対応方針を決定するなどのワークショップを行いました。その後、各班の代表者が被災者等へのメッセージを発信しました。

熱気あふれる研修を終え、参加者からは「災害対策本部会議での協議・共有化すべき情報の総合分析の必要性を感じた」「情報発信の重要性をあらためて認識できた」などの声が寄せられました。



班に分かれてワークショップ



メッセージを発信

2014年度「震災資料のメッセージ」を展示中

「震災資料のメッセージ」は、昨年度から始まった展示企画です。当センターに寄贈された一次資料(震災時に使用されたもの)の中から、毎年のテーマに沿ったものを展示していきます。

震災20年目を迎える今年度は、「資料で、あのときをのぞいてみよう」をテーマとしました。9月末から2か月ごとに、「水を運んだポリ容器」「日本一周した自転車」「当時活躍した機械(新聞社で使用されたFAX)」「音の記録(FM局の放送を記録したVHS)」を順に紹介します。当時は単なる日用品だったものが、震災という「あのとき」を経て「震災資料」となったことに注目しました。



第1弾は、ある女性が三重県の自宅から被災地西宮で暮らす男性の元へ、水を運ぶために用いたポリ容器を展示します。この出来事をきっかけに二人は結婚されました。

当時の懐かしさだけでなく、震災を知らない世代や地域の方にも、人の暮らしや思い、その時の行動を、知っていただくきっかけとなることを願っています。それぞれの「あのとき」の記憶や記録を、今、そして未来へと伝えている資料。ぜひ、のぞきにお越しください。

期間：9月30日(火)～平成27年5月31日(日)(予定)

場所：人と防災未来センター西館3階 ガラスケース

問い合わせ：人と防災未来センター資料室 TEL 078-262-5058

実践的防災研究について兵庫県と意見交換会を実施

当センターで実施している実践的防災研究について、内閣府との意見交換会に続き、9月2日に兵庫県との意見交換会を実施しました。当日は、杉本防災監、松原防災企画局長、早金災害対策局長をはじめ、防災2局の幹部職員が多数出席する中、平成25年度に実施した中核的研究プロジェクト「東日本大震災の教訓を踏まえたスーパー広域災害における組織マネジメント手法の検討」や特定研究の「小規模自治体における災害時の行政・地域の機能継続に関する研究」「大規模災害における国際支接受入れ調整に関する研究」、受託事業の「宮城県山元町における東日本大震災対応の課題と教訓の検証(山元町受託事業)」「東日本大震災の復旧・復興に向けた人的支援についての調査(全国知事会受託事業)」などの研究成果をセンター研究員等が発表しました。

また、今年度実施する「広域巨大災害における組織マネジメント手法及び組織間連携方策の検討」の各分野別の研究計画や、4本の特定研究(災害の記憶・記録の保存・継承に関する研究、東日本大震災における行政の被災者支援施策に関する研究、災害関連広報活動の効果向上を視野に入れた防災/災害対応訓練/演習のあり方に関する研究、兵庫行動枠組み(HFA)進捗の評価・検証に係る研究)の概要を説明し、防災監をはじめ防災局職員との活発な意見交換を行い、タイムラインに即して変化する状況を踏まえて研究を深めることなどについてアドバイスをいただきました。

今回の意見交換を一つのきっかけとして、当センターの実践的防災研究や人材育成を、兵庫県、関西広域連合の具体的な防災・減災施策とも連携して、一層推進していきます。

平成26年度秋期「災害対策専門研修」マネジメントコースの実施結果

当センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。当該コースは災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに、延べ2,100人を超える方々が受講され、全国の自治体等から高い評価を得ています。秋期研修においては、中堅職員を対象としたエキスパートA、エキスパートBおよびトップを補佐する者を対象としたアドバンスト／防災監・危機管理監コースの3コースを実施しました。

エキスパートAでは、町内にクマが出没した危機発生時を例に、災害対応の考え方について演習形式で学びました。直前に台風19号が上陸したこともあり、業務の都合により参加できなかった方もおりましたが、アンケートでは「この研修を通して得たものを自治体に持ち帰り、災害に強い自治体にすべく活用していきたいと思う」などの意見が寄せられ、また、受講者間の交流を通じて防災担当者の全国的なネットワークが一層強まりました。

コース名	日程	修了者
エキスパートA	10月14日(火)～17日(金)	23人
エキスパートB	10月21日(火)～24日(金)	28人
アドバンスト/防災監・危機管理監	10月30日(木)～31日(金)	19人
合計(延べ)		70人



災害対応演習「クマ演習」
(10月16日エキスパートA)



災害対策本部の空間構成設計演習
(10月22日エキスパートB)



災害対応ワークショップ
(10月31日アドバンスト/防災監・危機管理監)

平成26年 御嶽山噴火現地調査報告

9月30日から10月1日まで、宇田川研究主幹他2人の研究員を、9月27日の御嶽山噴火により災害対策本部等を設置し救助活動にあっていた長野県と岐阜県に派遣し、災害対応の状況等の調査を行いました。

長野県庁では、発災からの時間経過とともに、行方不明者の帰りを現場近くで待っている家族のケアが、重要性を増していると認識されており、兵庫県立こころのケアセンターの協力を受け、当センターより家族等への心のケアに関する参考資料を提供しました。

詳細は、人と防災未来センターホームページに掲載している「DRI調査レポートNo.40 平成26年 御嶽山噴火現地調査報告(速報)」(<http://www.dri.ne.jp/wordpress/index.php/no40-ontake>)をご覧ください。



長野県消防応援活動調整本部



岐阜県災害対策本部情報センター

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

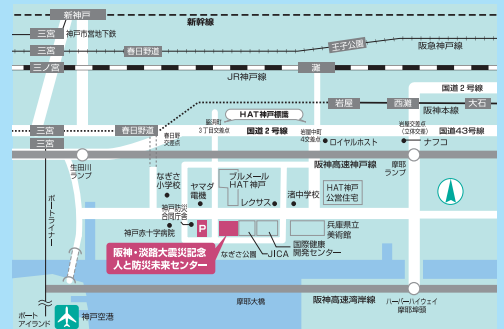
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



●企画展「減災グッズ展2014『食×減災』非常時の食に関する備え」を開催しました

9月17日から10月13日まで、人と防災未来センター西館2階防災未来ギャラリーで、「減災グッズ展2014」を開催しました。この企画展は今回で3回目を迎え、「『食×減災』非常時の食に関する備え」をテーマに、食に関する防災・減災用品を開発・販売する企業の中から、公募形式で収集した製品56点を展示しました。

非常食は、阪神・淡路大震災や中越大震災、東日本大震災など数々の災害を経て大きく進化しており、乾パンやアルファ化米など昔からあるものに加え、筑前煮等のおかず、パスタ、アレルギーや内部疾患のある方用のユニバーサル製品など、さまざまな商品が出ています。展示を見た来館者は、これまで知らなかった新しい非常食を前に、あらためて自分たちに必要な物を吟味していました。

また、「食の備え」の新たな考え方として、普段から食べている乾麺や乾物などもいざというときの非常食になるという活用方法や、レトルトやインスタント食品は古い物から消費し新しい物を補充することによって常に一定量を蓄えておく「ローリングストック」という方法を紹介しました。

「備え」の必要性は誰もが感じていることですが、何をそろえればいいのか分からず、結局準備できていない方も多いと思います。この企画展は、そういった人に「備え」のヒントを与えるきっかけとなったのではないのでしょうか。



●震災復興10年PRキャラバン「新潟県中越大震災 復興の軌跡展」を開催しました

10月23日に発生から10年を迎えた「新潟県中越大震災」をパネルや映像で振り返る「復興の軌跡展」が、9月30日から10月13日まで、人と防災未来センター西館1階ロビーで開催されました。

被災地の長岡市、小千谷市などでつくる「中越メモリアル回廊推進協議会」主催で、震災の概要、震災をきっかけに復活した生業や伝統文化の紹介、震災から復興に至る年表等の展示や、震災復興アーカイブの上映などを行いました。

来館者には、常設展示では阪神・淡路大震災や東日本大震災を、この企画展では中越大震災をあらためて知っていただく



機会となりました。災害を知り、その経験や教訓を学ぶことが、これからの防災・減災へとつながります。観覧した方々には、それぞれの被災状況や復興の過程から多くのことを感じとっていただけたのではないのでしょうか。



Hem21 NEWS
vol.48

平成26年11月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部
TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください